

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利他感謝を理念とし、自分で出来ることはやって頂く、職員から感謝を伝えることで理念を共有し実践につなげている。	「法人憲章」として法人理念、使命、10項目の行動規範などについては玄関や各ユニットホールに掲示し、行動規範を毎日の朝礼時に唱和し具体的な支援に繋げている。また、理念に沿ったサービス計画を作成している。困難事例などがあれば、所長や主治医に相談し、利用者が穏やかに生活が送れるように全職員で統一したケアに当たっている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った活動や支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前はオレンジカフェをしたり、地域のお茶のみサロンに出かけたりしていたがコロナ感染防止のため自粛していたが、5類にもなり再開するよう考えている。	開設以来区費を納め地域の一員として積極的に地域活動に参加していたが、新型コロナ禍が長引き現在も全ての地域行事が中止となっており残念な状況が続いている。ホームの夏祭りの花火大会等にも地域の皆様に沢山来訪していただき利用者と共に楽しいひと時を過ごしてきたが、新型コロナ禍が長引き、現在も予断を許さない状況下で、自粛せざるを得なくなっている。昨年の5月の新型コロナ5類移行を受け、来年度からは活動を再開したいとしている。そうした中、散歩の時などに地域の人々と日々親しく挨拶を交わし、野菜等の差し入れも頂いている。また、2～3ヶ月に1回、ホームの元職員などを含めた2～3名の方がホームの周りの草取りボランティアとして来訪している。市の社会福祉協議会を通じて、登録している傾聴ボランティアなどの依頼も、現在、進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や申し込みに来られた方、家族の方が困りごとがある時は相談に乗っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染防止のため、集まって運営推進会議は開催できていないが文書での報告はしているが、話し合いは出来ていない。4月以降、再開するよう計画之中である。	開設以来地域に密着したホームとして発信を続けており、会議参加メンバーも自治会役員、民生委員、近隣住民代表、市関係者等、20名が名を連ねており、新型コロナ禍の中では書面での開催として来たが、来年度、4月からは対面での会議を予定しており、市の担当部署にも相談している。会議では、利用状況・職員状況の報告、事故報告、行事報告等を書面として纏め、意見・助言などを頂き、運営に反映していくようにしたいと考えている。	

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染防止の為、今は行えていない。 4月より運営推進会議の実施等、協力関係を築くように取り組みたい	市高齢福祉課とは事故報告ほか、様々な事柄について連携を取っている。地域包括支援センターとは利用状況を知らせたり、利用者の紹介、相談等で連携を図っている。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応している。ホームの管理者が民生委員の方の集まりで、認知症の方との関わりの仕方などについて説明したことがある。介護相談員の来訪も新型コロナの影響を受け中断されたままであるが、再開されたら受け入れをしたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会は3ヶ月に一度開催し、身体拘束についてケアを振り返っている。また、玄関の開錠については7時から18時まででは玄関を開錠している。	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は日中開錠されており、出入りも自由に行える状況にあり、職員はきめ細かな所在確認を心掛けている。外出傾向の強い利用者がいるが、本人が満足するように職員が付き添い、ホームの周りを散歩したりしている。また、転倒・転落が危惧される利用者には家族と相談の上人感センサーなどを使用している方が若干名おり、床に布団を敷いている方もいる。定期的に本部で開かれる身体拘束・事故防止委員会に所長が出席して会議内容をホームに持ち帰り、全職員に対し研修を行い、拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について年2回勉強会を開催し、どんなことが虐待に繋がるのか考え、ケアの振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人がついている人はいないが、制度について勉強会を行うよう計画中である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価を行いアンケートを実施し、要望などあれば反映させている。	新型コロナ禍が長引き家族との面会も制約を受けながらの状況が続いていたが、現在、事前に連絡を頂き、玄関口で、2～3人ほど、15分位の対面で実施しており、週5日ほど見える家族もいる。そうした中、看取り中の面会については感染対策を取った上で居室に入っただき最期を共にしていただくようにしている。また、ホームでの生活の様子は1週間に1回ブログを更新し家族に知らせ、一人ひとりの様子については電話やSNSで居室担当職員からきめ細かく知らせ、家族より喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やその他、提案がある時は議題提案をできるようにして、業務やケア等に反映している	月1回の職員会議の内容の充実を図るため、事前に「問題提起、解決策」等の議題提案をもらいそれについて話し合い、意思統一を図るようにしている。合わせて、サービス向上、リスクマネジメント、研修など、法人の5つの委員会からの報告、法人からの連絡事項等を行っている。また、人事考課制度があり職員は半年毎に目標管理を行い、所長による個人面談も行われ、モチベーションアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	標準業務の作成や役割定義表を作成、個々の結果を明確にできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で研修委員会を設け、入社時に必ず研修を行っている。また、実技については、研修センターにて1ヶ月～3ヶ月のOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内では委員会など参加できているが、それ以外での交流はできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の段階から、事前にご本人と面談を行い、要望や安心できるような環境作りができるようにチームで話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談では、ご家族とも話し合い、困りごとや要望を聞いたり確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初日から1週間は様子観察を行い、どのような支援が必要なのかを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをしていただければ「ありがとう」と感謝の気持ちをお伝えしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にも、本人の視点に立っていただけよう理解を求め、ケアの改善に活かせるような関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋など馴染みの関係がある方については、関係が途切れないように支援している。	家族より了解を頂いている友人・知人の来訪がある利用者があり、事前に連絡を頂き、感染対策を取った上で、家族同様に玄関先での面会を行っている。現在、家族が同行して馴染みの店や場所に外出する方もおり、外泊も可能となっている。家族との遣り取りが主となっているが、携帯やスマホを持っている方もいる。理美容については以前、馴染みの店に通っていた方がいたが、現在、殆どの利用者が2ヶ月に1回、馴染みの理容師の来訪でカットしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう、お互いが必要とされる間柄になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点での実績はないが、必要に応じて相談は行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活や価値観をチーム全体で把握し、本人が望む暮らしを考えて支援している	利用者の平均介護度2.8という状況で、意思表示の難しい利用者が半数ほどおり、家族から聞いた生活歴などの情報も参考に、利用者の「できること」「好きなこと」等、思いを受け止め希望に沿えるようにしている。食器洗いや食器拭き、居室の掃除等、介護計画書の援助内容に役割として掲げ、ふだんの生活の中でも飲み物や洋服選び等、職員が幾つか提案して選んでいただくようにしている。日々、気づいたこと等は「ケース記録」として纏め、出勤時や夜勤時に確認し、一人ひとりの意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に今までの暮らしや、入所後も本人や家族から聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日により状態が違うため、心身の状態の把握に努め、本人に負担にならないような支援に努めている。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状況や状態に合わせ変化があればその都度、医師や介護職員、ご家族様からの意見や要望を聞き、介護計画を作成している。	職員は2～3名の利用者を担当しており、ケアプランの状況を日々チェックし、1ヶ月毎にモニタリングも行いケアマネージャーに報告し、3ヶ月に1回モニタリング表を作成し家族の希望も加味しながら所長とケアマネージャーがプランを作成している。入居時は暫定で1ヶ月の計画を立て、安定していれば、その後、短期目標を3ヶ月、長期目標を6ヶ月とし、それぞれの期間に合わせ見直しを行っている。状況に変化が見られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援チェック表や介護記録を活用し、職員間での情報共有を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われず、その人にとって安心につながるような支援が出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染防止の為、行えていなかったが今後学生の実習やボランティアの受け入れを検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望によって、総合病院や専門医に行ったりと良い関係を築きながら支援している	入居時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みについて説明している。現在、入居前からのかかりつけ医の受診対応の方が若干名おり、月1回家族が受診にお連れしている。他の大半の方はホーム協力医の月1回の往診で対応している。また、法人内の訪問看護師の来訪が毎週あり、利用者の健康管理と合わせて所長との連携が図られている。歯科については協力歯科の往診が月1～2回あり、また、歯科衛生士の来訪もあり口腔ケアに合わせて診療の有無を判断して協力歯科に連絡し、必要に応じ往診をしていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に訪問してもらい、健康チェックや患部の経過をみてもらう。必要に応じて、受診や処置の指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	千曲中央病院や厚生連のケースワーカーと連絡を密にとり情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から医師と相談し、家族に状況を報告している。今後の方針を家族や、かかりつけ医と相談しながら決め、チームとして支援に取り組んでいる。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事や入浴が難しくなり終末期に到った時には家族、医師、ホームで話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上で医師の指示の下、看取り同意書にサインを頂き看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の看取りを行い、新型コロナ禍の中ではあるが家族には居室で最期を共に過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、看取り中の日中はベッドをリビングに置いたり、居室ドアを開けたりして最期を共に過ごし、家族、利用者、職員全員でお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実施は出来ていないが、緊急時マニュアルを用意し対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練年2回、災害訓練年1回を実施し、避難方法を身に着よう努めている。	2019年秋の台風19号の災害を教訓としてホームとして年2回の防災訓練を行い、また、法人としても全事業所統一の訓練などを年1回行っている。ホームとして火災を想定し初期消火、通報訓練、利用者全員玄関先まで移動しての避難訓練を行い、水害想定で土のう袋を積み利用者を車に載せての避難訓練を行っている。また、緊急連絡網についてはスマートフォンの一斉配信訓練を行っている。備蓄については「水」「ごはん」「缶詰め」等、食料品を中心に準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に勉強会の開催し、ケアの振り返りを行っている。	利用者主体のケアを意識した接遇チェックリストを用い利用者との接し方に気を配っている。トイレやお風呂の介助に関わる時には利用者の許可を頂いている。排泄介助には特に気配りをしドアの開閉、職員が共にトイレに入る場合にはカーテン等を用い中が見えないよう心配りをしている。合わせて居室に入る際も支援内容を話して許可を頂きノックと声掛けを忘れないよう徹底している。呼び掛けは希望を聞き、苗字か名前を「さん」付けで呼び出している。法人として個人情報に関わる研修が年2回行われている。全体会議の席上でプライバシー保護について話し合うこともあり、日々の支援で実践している言葉遣いについても丁寧の中に親しみを込め利用者一人ひとりの状況に合わせた問い掛けを行い、気持ち良く過ごしていただくように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の能力に合わせ、選択しやすい質問を行い自己決定を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、体操やレクの提供することに対し、有無を自分で決められるような声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族に、その方が着慣れた衣類や日用品を持ってきていただき、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、その方の好きな物食べたい物を確認し提供。また、毎日の食事についてもその方の能力に合わせ、準備や片付けと一緒にやっている。	自力で摂取できる方が三分の二弱、一部介助と全介助の方が数名ずつという状況である。食事の形態も常食、一口大、荒キザミ、ソフト食など、一人ひとりの嚥下状態に合わせ対応している。調理専門スタッフがおり、冷蔵庫の中の食材を確認の上、肉、魚のバランスを考え季節感も加味しながら作り立ての温かい料理を昼食時と夕食時に提供し、食べることの楽しさを味わっている。また、「お寿司」「牛丼」「持ち帰り弁当」等をテイクアウトしたり、誕生日には利用者の好きな物を聞き、「チラシ寿司」や「カツカレー」等を調理スタッフが作り、誕生会のひと時を楽しんでいる。「ニラせんべい」「こねつけ」「おはぎ」などを手作りし、おやつとして食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食べる量や栄養バランスを考えて調理し、水分量は、1日1000mlは摂取出来るよう、10時と15時にお茶の時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し、実施している。歯科衛生士に来てもらい、口腔ケアのやり方やその方にあったポイントについて指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の状態や状況にあわせ、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	自立している方が大半で、布パンツとパット、リハビリパンツとパットを使用している。全介助の方は若干名でオムツ対応となっている。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、起床時、食事前、おやつ時等の定時誘導と、合わせて一人ひとりの状況に合わせた声掛けを行い、全利用者がトイレで排泄できるように支援している。排便については3日間ない場合はコントロールを行い、乳酸菌飲料を摂取したり、毎食時・おやつ時の「牛乳」「お茶」等、1日1,000cc以上の水分摂取に取り組み排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況によるが、水分摂取量や食物繊維が多い野菜や乳酸菌飲料や牛乳を提供している。また、お薬でコントロールすることもある。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方にあった入浴のタイミングを見ながら、寝る前に入浴するという生活習慣に合わせ、夕食後に入浴してもらっている。	見守りを受けながらも自立している方が半数おり、他の半数の方は一部介助が必要な状況となっている。お風呂は毎日準備し、入浴拒否の方もなく週2回入浴を行っている。そうした中、希望で毎日入浴される方が若干名おり、昔からの習慣で夕食後に入浴される方もおり利用者の希望に合わせて入浴を行っている。また、入浴剤を使ったり、「菖蒲湯」「ゆず湯」「みかん湯」等を楽しんでいただこうにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせてながら、就寝や休息を個々に応じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時にかかりつけ医に経過を報告し、その人に合う服薬の支援が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや家事参加など、その方が楽しみにしていることを把握し、楽しく参加していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止の為、控えていたが天候を見ながら公園に散歩に行くなど、家族に協力してもらいながら支援している。今後は、普段行かない場所へ行かれるよう計画中である。	外出時、自立歩行の方と杖・歩行器の方がそれぞれ三分の一弱で、半数弱の方が車いす使用という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、春のお花見や秋の紅葉見物は感染対策を取った上で近くの更埴中央公園まで出掛けている。新型コロナ禍が長引き年間の外出計画が全て中止になっていることから収束が待たれるが、来年度は、感染対策を取りながら工夫をし季節感が味わえるような外出計画を立てようとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を持したり使えるように支援している	コロナ感染防止の為、外出を控えていたが、今後、買い物や外出に行き、お金を使えるように支援できるよう計画中である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らの希望の時は支援している。携帯電話を持ち込まれている方もいる。		

グループホームまゆ更科

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部のホール、トイレ、浴室は清潔感を保ち、ホールは季節感を感じられるように花や絵などを飾っている。また、入浴時は入浴剤や行事風呂(ゆず風呂、リンゴ風呂など)を行い工夫している。	両ユニットを挟んで、事務所とキッチンがあり、そこから全体を見渡すことができ、所在確認が容易にできる。利用者の集うホールは一部畳敷きで広々としており、天井も高く開放感がある。ソファやイス、テーブルも置かれ、利用者は教科書を使った学校や体操、レクリエーション、テレビなどを楽しみ、一日の殆どをホールで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブル以外に、畳の場所やソファの設置をして自由に過ごせる空間や居場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使い慣れた物や馴染みのものを持ってきていただき、その人らしい空間づくりに努めている。	クローゼットと洗面台が設置された各居室はプライバシーに配慮され暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、いす、テーブル、ハンガーラック、使い慣れたタンス、衣装ケース、お仏壇等が持ち込まれ、壁には職員から贈られた誕生日カードや家族の写真が貼られ、思い思いの生活をしていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒となる危険なものは置かないようにしながら生活感が出るように自由に行き来できるような環境作りをしている。		